

展示 PICK UP

■3F ブルーゾーン [アート・言語・文学]の本を集めたゾーン

「漢字展」

身の周りの漢字に改めて注目してみませんか？ 私たちが暮らす上で欠かすことのできない漢字という文字に焦点を当て、地名など日本人に馴染みのある漢字や、漢字の成り立ちについて書かれた資料の他、アート作品として紹介している作品集やデザイン集を展示しています。また、自由に漢字を創作してもらうアンケートも実施していますので、ぜひご参加ください。



普段目にしていない漢字の成り立ちを調べてみませんか？

■3Fエレベーターホール ガラスケース

日比谷カレッジ「中村(なごむる)市への招待」関連展示

空想の街「中村市」への招待

—空想地図作家 今和泉隆行作品の魅力—

2月7日の日比谷カレッジ「中村(なごむる)市への招待」講師、空想地図作家の今和泉隆行氏の作品をガラスケースにて展示しています。代表作である「中村(なごむる)市」の手描き1訂版地図、そして現在の姿になるまでの試行錯誤の跡がうかがえる、貴重な作成途中の地図もご覧いただけます。また、中村市の3人の女性の「落とし物」をヒントに、スタッフがセレクトした「空想本棚」も紹介しています。



『みんなの空想地図』今和泉 隆行 著 白水社 2013年

From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

〈千代田図書館 企画展示〉

としょかんのこしょてん100回記念

図書館からはじまるぶらり旅

まるごと神保町

前期:1月28(月)～3月23(土) 後期:3月25(月)～5月25(土)

場所 千代田図書館 9階 展示ウォール ほか

2007年からスタートした神田古書店連盟との連携展示「としょかんのこしょてん」は、ついに100回目の開催を迎えます。それを記念し、今回は館内の展示エリアを存分に使い、本の街・神田神保町の新旧多彩な古書店や古書店主のおすすめ本、神保町のまちの魅力を紹介いたします。展示をみて神保町や古書に興味を持ったら、一緒に展示する本を手にとってみてください。展示期間中には、神保町のいろいろな顔を知ることができる関連イベントも開催します。図書館とまちを探索して、神保町と古書とをとりまく素敵な体験を楽しんでください。



LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

ES・ディー・ジーズ SDGs × つながり

最近では、ご近所づきあいがなくても大して困らず「お隣にどんな人が住んでいるのかわからない」という方も意外に多いのではないのでしょうか。日常的には特に必要を感じない地域の人との「つながり」ですが、もし大地震が起こったら？ 否応なく、まわりの人と協力して困難を乗り越えなくてはなりません。災害に強い安全なまちづくりのために、私たちに何ができるでしょう。それはちょっと困ったとき、気軽に手を差し伸べあえるような関係を、普段からご近所で築いておくこと。たとえば、きっかけはよく見かけるあの人との挨拶から。そんな小さな行動の積み重ねが、私たちの暮らしを守ることにつながります。

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals,SDGs)」は2015年9月、国連サミットで採択された世界を変えるための17の目標です。その中の1つに「11 住み続けられるまちづくりを」があります。

RECOMMEND

『広く弱くつながって生きる』 佐々木 俊尚 著 幻冬舎 2018年  
人とのつながり方を「浅く、広く、弱く」に変えた結果広がった新たな世界とは。

日比谷カレッジ 報告 12月6日(木)

「心理学から読み解く防災行動」

講師:島崎 敢 (国研)防災科学技術研究所 特別研究員  
「人はなぜ逃げることができないのか」-非常時にはたらく心の動きをわかりやすい言葉と豊富な事例で紹介。災害を乗り越えるためには、心の仕組みを知るとともにあらゆる局面を想像し、どう行動するかを考え続けることが大事であると学びました。

2月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 「日比谷公園～時代をみつめた100年～」(～5/17) NEW!  
明治36年に開園した日比谷公園。都心に位置し、数々の歴史的な出来事の舞台ともなってきました。そして今後も新しい時代とともに変化を続ける日比谷公園の100年に焦点を当てた展示です。

3F グリーンゾーン 「平成の31年」(～2/15)  
平成が終わり新元号となるまで、あと残り数か月。パブル崩壊や、度重なる自然災害の発生と同時に、テクノロジー分野の進歩などから人々の生活が激変した31年間を資料によって振り返ります。

3F エレベーターホール 「美熟女子in日比谷図書文化館」(～3/31)  
「美熟女子」とは、東京国立近代美術館・三菱一号館美術館・プリチストン美術館の3館が美術の魅力や楽しみ方を広げたいと立ち上げたツイッターです。当館では、この3館が発行した展覧会カタログやチラシとともに、美術館を訪れるきっかけとなるような資料を展示しています。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

特別研究室内田嘉吉文庫から知る

日本統治期台湾の商業地

特別研究室企画展示

【広告で見る 日本統治期台湾の商業地】

特別研究室内田嘉吉文庫に残されている日本統治期台湾関連本にはさまざまな広告が掲載されているものがあります。それらの広告のグラフィックデザインやキャッチコピーなどから時代の特性を見ることができますが、記載されている企業・商店等の所在地からは、当時の商業の中心地を知ることができます。本展示では、日本統治期台湾の広告を紹介するとともに、広告主の所在地を特別研究室所蔵の『火災保険特殊地図』上に特定することを試みました。広告と地図からかつての台湾の賑わいの街をご覧ください。



▲『台湾時報9号』(1910年)より/特別研究室蔵

特別研究室内田嘉吉文庫に残されている日本統治期台湾関連本にはさまざまな広告が掲載されているものがあります。それらの広告のグラフィックデザインやキャッチコピーなどから時代の特性を見ることができますが、記載されている企業・商店等の所在地からは、当時の商業の中心地を知ることができます。本展示では、日本統治期台湾の広告を紹介するとともに、広告主の所在地を特別研究室所蔵の『火災保険特殊地図』上に特定することを試みました。広告と地図からかつての台湾の賑わいの街をご覧ください。



▲『台湾時報2号』(1909年)より/特別研究室蔵



▲『台湾時報5号』(1909年)より/特別研究室蔵

概要 展示構成

- 期間:開催中～3月31日(日) ※休館日:2月18日(月)、3月3日(日)
- 開室時間:平日10:00～20:00 土曜10:00～18:00 日曜・祝日10:00～16:00
- 会場:4階 特別研究室 ■ 入場無料
- 内田嘉吉文庫所蔵の台湾関連本に掲載されている広告のパネル
- 『火災保険特殊地図』1933年 台北市、高雄市 ほか
- 展示図書 『台湾時報』第1号～第12号(1909～1910年) 『常夏之台湾』(1928年) 『台湾』(1912年) など

calendar 開館時間:平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2019年2月							2019年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2					1	2	
3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28			24	25	26	27	28	29	30
							31						

■お問合せ先:千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL:施設代表 03-3502-3340 図書館総合カウンター 03-3502-3343 URL:https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

information

3月の休館日のお知らせ

“東京マラソン2019”の開催に伴い、日比谷公園および歩道を含む周辺道路が交通規制されるため、下記の通り3月の休館日を変更いたします。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

休館日:3月3日(日) ※休館日予定の3月18日(第3月曜日)は全館開館いたします。

access

〔都営地下鉄〕●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分  
〔東京メトロ〕●丸ノ内線●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分 ●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分 ●JR「新橋駅」徒歩10分  
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 2・3月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 2/15 (金) 千代田区内ミュージアム連携企画 展覧会への入口講座Vol.27 温泉～江戸の湯めぐり～ 国立公文書館 平成30年度第4回企画展の内容を中心に

講師：高橋 喜子(独立行政法人 国立公文書館 統括公文書専門官室 調査員)

日本人が古くから親しんできた温泉。江戸時代には、名所図会、紀行文などを通して温泉地の情報が流布しました。本講演では、国立公文書館で開催する企画展「温泉～江戸の湯めぐり～」(平成31年1月26日(土)～3月9日(土))の内容を中心に、関連資料を解説します。主に江戸時代の資料を取り上げ、人々と温泉の関わりをご紹介します。



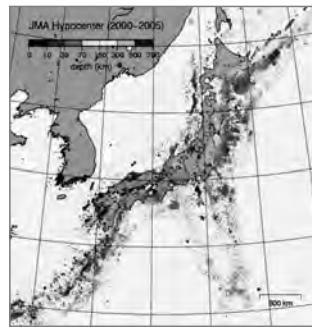
「七湯集(しちとうしゅう)」 国立公文書館蔵 文化8年(1811)に成立した箱根温泉の案内書

■日時:2月15日(金)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:地下1階 コンベンションホール(大ホール)  
■定員:200名 ■参加費:500円

## 2/20 (水) 地震の予測はなぜ難しいのか

講師：井出 哲(東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻教授)

日本是世界でも稀に見る地震国であり、近い将来に大地震が起こることは、ほぼ確実である。しかし「直前に警報を出すような地震予知」は、ほぼ不可能である。地震とはどのような現象であり、なぜ予測するのが難しいのか?将来の地震について何がわかっているのか?最新の知見をもとに紹介する。



日本の地震活動

■日時:2月20日(水)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員:200名 ■参加費:1000円

## 2/26 (火) 民衆にとっての「墓」の変遷―葬送の原点を探る

講師：碑文谷 創(葬送ジャーナリスト)

「墓」という言葉で想起するエジプトのピラミッド、日本の古墳は支配者の墓であって民衆の「墓」ではありません。名もない民衆個々にとって、死者とはどのような存在で、「ハカ」とはどのようなものだったのでしょうか?少子高齢社会にある日本の葬送は、いま大変動期にあります。これらを考える必要な視座を探ります。



■日時:2月26日(火)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員:200名 ■参加費:1000円

## 2/28 (木) 単位が変わると社会が変わる 新しいキログラムの基準がもたらすもの

講師：白田 孝(国立研究開発法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター長)

私たちが普段当たり前のように使っているキログラムやメートルという単位。その基準は誰がどう決めたのでしょうか。実は2019年5月、キログラム、アンペア(電流)、などの単位の基準が変わることが予定されています。単位の起源をさぐり、単位の進化とそれに関わる研究者たちの挑戦を紹介いたします。



現在のキログラムの基準(国際キログラム原器) Courtesy of the BIPM

■日時:2月28日(木)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員:200名 ■参加費:1000円

## 3/8 (金) 千代田区民講座 あなたを輝かせる花セラピー

講師：青山 克子(一般財団法人 国際花と緑のセラピー協議会理事長)

いまストレスで多くの方が悩んでいます。仕事や育児に疲れたところを、たった1輪の花が癒します。花には人を癒す力があり、その力を知れば誰でもこころのケアができるのです。暮らしや人生に役立つ人と花とのかわり方を心理学の視点を織り交ぜて分かりやすく伝えます。(主催:NPO法人 神田雑学大学、共催:日比谷図書文化館)



■日時:3月8日(金)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員:60名 ■参加費:無料

※1月20日(日)から千代田区民受付開始。区民以外は、1月27日(日)から受付開始。

## 3/8 (金) SDGs 理解からアクションへ パートナーシップで日本の未来をつくらう!

講師：佐藤 真久(東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授) 広石 拓司(株式会社エンパブリック代表取締役)

社会の多様化で、従来の縦割りでは対応できない複雑な問題が増えた現代。それらを克服し持続可能な経済・社会を実現するために、企業、NPO、行政、地域、個人は今、何にどう取り組むべきか。SDGsの本質をおさらいしつつ、次の一歩につなげる具体的な道筋を示します。

■日時:3月8日(金)19:00～21:00(18:30開場)  
■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員:200名 ■参加費:1000円

## 3/9 (土) 美を見て死んだ男、堀越千秋 一画集編集から見えてきたもの

講師：大原 哲夫(大原哲夫編集室代表)

週刊朝日「美を見て死ぬ」の連載、ANA機内誌『翼の王国』の表紙を描いた画家・堀越千秋がスペインで亡くなって2年になる。友人の大原氏は生前の堀越より画集を託された。『堀越千秋画集』編集の過程で明らかになった知られざる作品を紹介。地位や名声を求めず、権力に媚びなかった画家の生き方を通して、美とは何か、芸術の本質に迫ります。



■日時:3月9日(土)14:00～16:00(13:30開場)  
■会場:4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員:60名 ■参加費:1000円

## 3/11 (月) フランス航空教育団来日100周年 一日本における航空技術の夜明け

講師：鈴木 真二(東京大学大学院航空宇宙工学教授) 白井 実(フランス航空教育団来日100周年記念事業実行委員会事務局長)

今から100年前、先進国に比べて大きく遅れていた日本の航空レベルに危機感を感じた陸軍は、当時航空技術の最先端にあったフランスに対して最新の航空機材の購入と人員の派遣要請を行いました。本講座では、日本の航空産業の歴史と、そこに多大な影響を与えたフランス航空教育団の日本各地でのさまざまな教育活動についてお話しします。



フランス人教官と訓練生 フランス航空教育団来日100周年記念事業実行委員会提供

■日時:3月11日(月)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員:60名 ■参加費:1000円(千代田区民・学生500円) ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

## 3/13 (水) 活字のかたち鑑賞会 その1 正木香子さんと味わう書体の世界

講師：正木 香子(文筆家)

毎日目にする文字。しかし、同じ「文字」でも「書体」の違いが感受性を刺激し、無意識のうちに言葉を味わいながら読んでいる、という事実はあまり知られていないのではないのでしょうか。長年読み継がれている名作や、最近話題になった本に登場する文字を通して、活字の変化を考察し、講師の体験を交えながら「物語と文字のマリアージュ」から生まれる魅惑の世界に迫ります。



■日時:3月13日(水)19:00～20:45(18:30開場)  
■会場:4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員:60名 ■参加費:1000円 ※2月1日(金)より受付開始

## 3/14 (木) 江戸歴史講座 第57回 58回 江戸っ子が好んだ寿司と蕎麦

講師：飯野 亮一(食文化史研究家)

約1300年前に生まれたなれずしが発展して、早ずしが生まれ、さらに江戸で握りずしが工夫されると江戸っ子の人気食になっていきます。また、江戸に蕎麦屋が誕生すると、江戸ではうどんより蕎麦が好まれ、江戸は蕎麦の町になっていきます。江戸っ子の人気食、寿司と蕎麦についてご紹介いたします。



すしの屋台 『百人一首地口絵手本』 梅亭樵父 著 明治2・3年頃 (国立国会図書館蔵)

■日時:第1回「江戸前の魚で握った握りずし」 3月14日(木)19:00～20:30(18:30開場) 第2回「うどんより蕎麦を好んだ江戸っ子」 3月28日(木)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員:各回200名  
■参加費:各回1000円(千代田区民各回500円)

## 3/20 (水) 上廣・日比谷ライブラリーレクチャー リーダーに学ぶ 自分の未来は自分でデザインする! ディズニーの元人材トレーナーが教える「夢をかなえる時間の使い方」

講師：櫻井 恵里子(ハビネスコンサルタント・Happiness Career Lab.代表)

人はそもそも何のために仕事をするのでしょうか?究極は「自分が幸せになるため」に働いているのだと思います。元ディズニーの人材トレーナーから、夢を持つことの大切さ、将来にむけてのキャリアデザインのお話やリーダーシップ、「人生を変える魔法の時間術」について学びます。時間がないと悩んでいる全ての方におすすめの講座です。



(主催:公益財団法人 上廣倫理財団、共催:日比谷図書文化館)  
■日時:3月20日(水)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員:200名 ■参加費:500円(千代田区民・学生無料) ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

## 3/25 (月) 人工知能は本当に私たちを幸せにするのか? 『決断』のときを迎えて

講師：山本 龍彦(慶應義塾大学大学院法務研究科 教授)

「AI」という文字を目にしない日はない。自動運転や医療のスマート化など、AIは私たちの生活をより豊かにするといわれる。しかし、本当にそうなのだろうか?AIによって究極の格差社会が生まれるとの指摘もある。この講演では、AI化によっていま何が起きつつあるのかを平易に解説し、自由と平等を重んじる憲法原理に適合したAI社会の実現を模索する。



■日時:3月25日(月)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員:200名 ■参加費:1000円

# Library Dining HIBIYA

## ■ ライブラリー ダイニング 日比谷 ■

地下1階に降りると、そこには2階3階の図書フロアの本も持ち込みができる落ち着いた雰囲気のレストラン「ライブラリーダイニング 日比谷 (Library Dining HIBIYA)」があります。ランチタイムはパスタやヒレかつ膳などお食事、カフェタイムではケーキなどのデザート、また午後6時以降のディナータイムではアルコールの提供など、読書をしながら様々なシーンでご利用いただけます。



※千代田区立図書館貸出券の提示で、ディナータイム(午後6時以降)のホットコーヒーまたはアイスコーヒーが100円引きになります。

■ 営業時間:平日11時～21時30分、土曜11時～19時、日曜・祝日11時～17時  
※ 営業日は館の開館日に準じます。

## ポモージュ広報室より

2月14日はバレンタインデー。ローマ帝国の時代からバレンタインデーの歴史は始まったとされます。チョコレートを贈るようになったのは、イギリスが発祥とされ日本に広まったのは第二次世界大戦後～1970年代ごろにかけて諸説あるようです。最近では、本命チョコや義理チョコの他にも自分の為や友達など身近な人たちに気持ちを伝える日になってきました。また季節は違いますがスペイン・カタルーニャ地方では4月23日にサン・ジョルディの日(本を贈る日)として大切な人に本と花を贈り大切に想う気持ちを伝え合う日もあります。今年のバレンタインデーは大切な人におススメの本を送るのも素敵ですね。